



凧揚げする子どもたちを見ながら考えたこと

校長 渡邊 正博

1月の風物詩的な遊び“凧揚げ”。1年生が生活科で“マイたこ”を製作。運動場をところ狭しと走り回り、楽しそうに遊んでいました。「立春の時期に空を見上げることは健康に良いといわれる。だから新年を迎えると子どもの健康を祈って凧揚げをするようになったんだよ。」と子どもの頃、父に教えてもらったことを思い出しました。残念ながら、私は当時流行ったゲイラカイトにも関わらず、高く揚げた記憶はありません…

さて、子どもたちです。一生懸命走りながら後ろを振り返り、糸がピンと張っているのを確かめると、うれしそうにそのまま走り続ける子。友達と一緒に走り出す子。いつまでも揚げ続けようと一生懸命走る子…みんな自分の力で揚げようと走り続けます。長く伸びた糸が凧と一直線になり、糸の分だけ空に高く揚げられます。「すごい！」の音が聞こえました。微笑ましい場面であり、郷愁さえ感じました。

【凧を高く揚げるコツ】風に逆らって走り、糸をスムーズに出すこと。凧に風を受けさせ、上昇気流をつかむこと。(ネット調べ)

- ◆空を見上げる。(一人で考え込まないで 空を眺める 心にゆとりを)
- ◆風に逆らって走る。(逆境に立ち向かう 爽快だね 一緒に行こうよ)
- ◆糸をスムーズに出す。(タイミングが大事 風を読む 相手を感じよう)
- ◆上昇気流をつかむ。(つかむまで、あきらめないで まだまだできる)
子どもたちの凧揚げを見ながら、誰かに、あるいは自分自身に向かって、いろんな思いが浮かんできました。

2025年も、もう2月になります。正月から3月までは行事が多く、あっという間に卒業式・修了式を迎えそうです。“日に美しく 日にたくましく”子どもたちが、そして、私たち職員も伸びてく兼山小であるよう精進していきます。保護者、地域の皆様、ご協力お願いいたします。

1月：兼山の子どもたち

